

# 「感染小康期」の入院医療提供体制の考え方

## 【現状】

県総合医療センターと県立医大附属病院を中心に300床超の病床を確保。  
5月20日現在、入院患者数が10人を下回る。

## 【「感染小康期」の対応】

- 新型コロナ患者への対応体制も維持しながら、通常診療体制の再開も視野に入れる
- できるだけ多くの病院で新型コロナ患者を受け入れられる体制に再構築
  - ✓ 県総合医療センターと県立医大附属病院は、中等症～重症患者を主に診る
  - ✓ 上記2病院以外の病院は、軽症～中等症患者を主に診る
- 発熱・肺炎症状の救急患者への対応力も強化

## 【実態整理が必要なこと・関係者全員で共有が必要なこと】

- 「感染小康期」における確保病床数
- 重症の新型コロナ患者に対応できる病床数
- 県内流行の第二波に備えた「入院医療提供体制(第二期)」の構築
- 入院が必要な発熱・肺炎で新型コロナウイルス感染症が否定できない患者に対応できる病床の確保

# 入院医療提供体制(第二期)

区分		感染小康期	感染拡大期	感染まん延期
重症	人工呼吸器を必要とする患者	入院 (〇〇床)	入院 (〇〇床)	入院 (〇〇床)
中等症	医学的に入院が必要な患者(酸素投与が必要等)			+ $\alpha$ (〇〇床)
軽症	医学的に通院での診療が可能な患者	宿泊療養	宿泊療養	宿泊療養

↑  
第一期の  
「感染拡大期」(フェーズ2)  
に相当するフェーズ

↑  
第一期の  
「感染まん延期」(フェーズ3)  
に相当するフェーズ

↑  
第一期の  
「感染まん延期(ピーク)」  
(フェーズ4)  
に相当するフェーズ

# 入院医療提供体制(第一期)

令和2年5月18日時点

区分		県内発生早期	感染拡大期	感染まん延期	感染まん延期 (ピーク)
重症	人工呼吸器を必要とする患者	入院 (24床)	入院 (64床)	入院 (318床)	入院患者受入 確保想定病床数 (ピーク時) 500床
中等症	医学的に入院が必要な患者 (酸素投与が必要等)				
軽症	医学的に通院での診療が可能な患者		宿泊療養	宿泊療養	